

## 第三者意見

### さらなる「見える化」を

昨年度の報告書と同じく、巻頭から順序良く章立てされており、特に「6つの重点テーマ(柱)」については、社会的責任に関する国際的な考え方(ISO26000)に照らしても、程よく組み込まれている印象です。また、報告書の前半で組織横断的に推進する「CSRマネジメント」に触れており、これを上位のものとして重視する姿勢が伺えます。さらに、今回の報告書から6つの柱それぞれについて、前年度の振り返りと今年度の方針を併記して報告するように変更した点など、進捗を「見える化」するための新たな工夫が伺えます。

一方、さらに「見える化」を推進していく上で、やや気になる部分もあり、以下の点が改善されれば、より良くなると思います。

#### 「声」の広聴、反映、そして発信を

「CSRマネジメント」の章において、「声」を事業運営に反映させるCSRマネジメントサイクルを構築しています。」との記載があり、ステークホルダーの「声」を聴く方法として、ここではアンケート調査を実施しているようですが、それだけではなく、さまざまな方法で外の「声」を聴くことが必要ではないでしょうか。また、どのような「声」があったのか、どのように事業運営に反映しているかがこの章では示されていません。

企業への信頼感の向上を図るために、「声」という情報のインプット、そして反映から発信に至るまでのアウトプットについては、それぞれ、体制のみならず手順も丁寧に設計・記載していただきますようお願いします。

#### 数値目標の開示を

CSR経営と不可分なPDCAサイクル(計画→実施→検証→改善)について、6つの柱それぞれの目標設定の開示

レベルに若干相違がみられます。例えば、「環境にやさしい企業活動を行います」の章には数値目標の記載がされているのに対して、その他の章では数値目標がそれほど記載されておりません。

組織として具体的な目標を掲げ、一定のペースで検証を行うことはCSRマネジメントの基本ですし、明白な目標があつてこそ達成度の評価もなし得ます。今後は6つの柱それぞれの数値目標及びその結果とプロセスが社外にも「見える化」されるよう、可能な限りの開示に努めてください。

#### 経営方針の体系化を

冒頭の「経営理念」と「行動憲章」に続き、「中期経営方針」が記載され、「重点的な取組み」も付記されています。こうした組織の中核をなす計画については、上位方針から下位方針までを分かりやすく体系立てられるべきですが、経営理念から重点的な取組みの設定に至るまでの各項目の関連性が見えず、例えば「行動憲章」と「重点的な取組み」の位置づけも不明瞭です。

組織としての考え方を表明する章でもありますので、これらの位置づけや関連性が分かる体系図にするなどして、経営方針が社内外に分かりやすくなるよう工夫してください。

特定非営利活動法人  
ふくおかNPOセンター代表

こが ももこ  
古賀 桃子氏



## 第三者意見を受けて

CSR報告書の信頼性を高めることや、取組みを強化することを目的に、昨年に続き、ふくおかNPOセンターの古賀代表に客観的な立場からご意見をいただきました。

当社は、地域・社会とともに持続的に発展していくため、CSRの取組みに対する皆さまのご意見・ご要望を、これまで以上にしっかりと把握し、それにお応えしていくことが大切だと考えております。ご意見をいただいた「声の広聴、反映、発信」につきまして、従来のアンケート調査やお客さまとの対話活動に加え、新たにお客さまモニターや社外専門家の方々からご意見をいただき、取組みに反映する予定ですので、来年度の本報告書においてご報告いたします。

また、「数値目標の開示」につきましては、ご意見を踏まえ、可能な限りの「見える化」に努めるとともに、「経営方針の体系化」につきましては、来年度の報告書において経営方針の体系を分かりやすく掲載したいと考えております。

九州電力株式会社  
代表取締役副社長 CSR担当

ちんぜい まさなお  
鎮西 正直

